

すずむし

VOL. 13, No. 4 (通巻90) 1. 3. 1964

倉敷昆虫同好会発行
倉敷市岡山大学大原農業生物研究所内
(連絡事務所 倉敷市幸町倉敷昆虫館内)

備中産カミキリムシ類採集目録

(1961~1963年分)

重井博・林憲一

備中地区は岡山県の西半を占めて、北は大山に連る中国山地、中部には広大な石灰岩台地をいだし、高梁川の清流は諸方に溪谷をつくり、等温線は美作地区から目立って南下し、しかも比較的交通便利なため好採集地が少くない。この地域のカミキリムシ類については古くから同好の諸氏によって調査がすすめられ、近くは1962年度にベーツヤサカミキリ・トウキョウトラカミキリ、1963年度にはイシキキモンカミキリ・アカジマトラカミキリ等の珍種も発見されて、現在(第13巻第3号)までに「すずむし」誌上に発表された備中産カミキリムシ類は合計5亜科91種に達している。

筆者も1961年から1963年までに採集した標本を整理して5亜科65種を記録することが出来たので、ここに分布資料として報告することにした。この中でホソカミキリ・カラカネハナカミキリ・トビイロカミキリ・チャボヒゲナガカミキリ・ムネモンヤツボシカミキリ・キモンカミキリ・ダイセンカミキリの7種は美作地区では採集されているが備中では未記録種であり、チャボハナカミキリ・ハネビロハナカミキリ・トウキョウヒメカミキリ・セミスジニセリンゴカミキリ・カエデヒゲナガコバネカミキリの5種は岡山県下でも初めての記録と思われる、これ等を加えると備中産カミキリムシ類は6亜科103種となり、分布上興味ある結果が得られた。

発表にあたって同定に御協力いただいた青野孝昭氏に深謝致します。尚記載中に(林採集)とあるのは林憲一採集のもので、その他は重井博採集のものである。

PRICNINAE

ノコギリカミキリ亜科

1. *Prionus insularis* Matsumura
ノコギリカミキリ
lex., 倉敷市向山, M.25.1962; lex.,
新見市草間, M.23.1963.

DISTENIINAE

2. *Distenia gracilis* Bleesig
ホソカミキリ
lex., 新見市足立, M.16.1961 伯備線足立
駅の窓ガラス上.

LEPTURINAE

3. *Taxotinus reinii* Heyden
モモグロハナカミキリ
lex., 川上郡成羽町天神山, M.16.1963.
4. *Quarotes doris* Bates
カラカネハナカミキリ
lex., 川上郡成羽町田原, M.16.1963 花上.
5. *Lamula decipiens* Bates
キバネニセハムシハナカミキリ
6ex., 小田郡美星町鬼ヶ嶽, V.5.1962.
6. *Pidonia amantata* Bates
セスジヒメハナカミキリ
lex., 高梁市玉川, V.3.1963.
7. *Pidonia debilis* Kraatz
チャイロヒメハナカミキリ
lex., 新見市天銀山, M.9.1963
8. *Pseudalosterna misella* Bates
チャボハナカミキリ
2ex., 新見市明石山, M.7.1963 花上.
9. *Anopliodemorpha excavata* Bates

- ミヤマクロハナカミキリ
 2exs., 新見市劔森山, VI.2.1963, 花上;
 2exs., 新見市上吉川, VI.9.1963, 花上;
 4exs., 新見市上吉川, VI.9.1963, 花上〔林採集〕
10. *Corymbia succedanea* Lewis
 アカハナカミキリ
 1ex., 川上郡成羽町天神山, VI.9.1961; 1ex.,
 阿哲郡哲多町荒戸山, VI.9.1961; 1ex., 阿哲
 郡神郷町三室, VI.16.1961; 1ex., 上房郡賀陽
 町大和山, VI.30.1961.
11. *Murthaleptura scotales* Bates
 ツヤケシハナカミキリ
 1ex., 川上郡川上町野呂, V.20.1962, 花上.
12. *Purastrangalis nymphula* Bates
 ニンフハナカミキリ
 3exs., 新見市天銀山, VI.25.1962, 花上; 1ex.,
 新見市明石山, VI.7.1963, 花上.
13. *Leptura ochraceofasciata* Motschulsky
 ヨツスジハナカミキリ〔ヨスジハナカミキリ〕
 4exs., 新見市明石山, VI.7.1963.
14. *Leptura latipennis* Matsumura
 ハネヒロハナカミキリ
 1ex., 新見市足立, VI.9.1963, 足立駅の材木
 上〔林採集〕
15. *Leptura dimorpha* Bates
 クロハナカミキリ
 1ex., 新見市劔森山, VI.2.1963; 2exs., 新見
 市天銀山, VI.9.1963; 4exs., 新見市上吉川,
 VI.9.1963; 5exs., 新見市上吉川, VI.9.1963
 〔林採集〕。以上何れも花上に集る。その中
 の4個体は♀で、前胸背が赤色を呈していて、
 従来ムネアカクロハナカミキリと称されてい
 たものである。
16. *Leptura arcuata* Fanzor
 ヤツボシハナカミキリ
 2exs., 新見市上吉川, VI.9.1963.
 花上で採集したが, *subsp. tsumagurohana*
(Chbayashi) ツマグロハナカミキリに該当する。
17. *Microleptura regalis* Bates
 オオヨソシハナカミキリ〔オオヨソシハナカミキリ〕
 1ex., 新見市足立, VI.16.1961.
- CERAMBYCINAE**
 カミキリ亜科
18. *Xystrocera globosa* Olivier
 アオスジカミキリ
 1ex., 倉敷市旭町, VI.14.1961.
19. *Mylorachus ischiharai* Chbayashi
 カエデヒゲナガコバネカミキリ
 11exs., 小田郡美星町鬼ヶ嶽, V.5.1963.
 カエデの花上で採集したもので, “日本産ヒ
 ゲナガコバネカミキリ属に就いて” 林匡夫〔昆虫
 学評論 Vol. 1, No. 1, 1948〕によって検討した結果,
 次の点で本種と決定した。
 1. 背板上の正中部に長い一個の小縦隆及びその
 両側より前方に彎曲し前縁後方で互に結合する隆
 起を有する。
 2. 翅鞘の色及び斑紋。
20. *Allotrochus sphaerioninus* Bates
 トビイロカミキリ
 〔クロアシトビイロカミキリ〕
 1ex., 新見市上吉川, VI.9.1963, 花上; 1ex.,
 新見市上吉川, VI.9.1963, 花上〔林採集〕。
21. *Stenygrinum quadrinotatum* Bates
 ヨツボシカミキリ
 1ex., 新見市上吉川, VI.9.1963〔林採集〕。
22. *Leontium viride* Thomson
 ミドリカミキリ〔ホソアオカミキリ〕
 1ex., 川上郡川上町野呂, V.20.1962; 1ex.,
 倉敷市生坂, V.25.1962; 2exs., 新見市天銀山,
 VI.9.1963; 1ex., 新見市上吉川, VI.9.1963; 1ex.,
 新見市上吉川, VI.9.1963〔林採集〕
23. *Pulaeocallidium rufipenne* Motschulsky
 ヒメスギカミキリ
 2exs., 川上郡川上町野呂, V.20.1962; 2exs.,
 川上郡備中町布賀, V.20.1962.
24. *Xylotrechus pyrrhoderus* Bates
 ブドウトラカミキリ
 2exs., 都窪郡早島町矢尾, VI.30.1963〔林採集〕。
25. *Xylotrechus emeiatus* Bates
 ニイジマトラカミキリ
 1ex., 阿哲郡神郷町天銀山, VI.15.1962
26. *Clytus melaeus* Bates
 シラケトラカミキリ
 1ex., 高梁市玉川, VI.17.1962; 1ex., 新見市
 上吉川, VI.9.1963; 新見市天銀山, VI.9.1963.
27. *Cyrtoclytus caproides* Bates
 キスジトラカミキリ
 2exs., 高梁市玉川, VI.17.1962; 1ex., 新見市上
 吉川, VI.25.1962; 4exs., 新見市明石山, VI.7.1963.
28. *Rhaphuma annularis* Fabricius
 タケトラカミキリ
 1ex., 倉敷市旭町, VI.8.1961.
29. *Rhaphuma japonica* Chevrolat
 エグリトラカミキリ
 1ex., 阿哲郡神郷町三室, VI.16.1961; 1ex., 阿哲郡
 神郷町天銀山, VI.15.1962; 2exs., 高梁市上吉川, VI.
 17.1962; 3exs., 新見市上吉川, VI.9.1963; 2exs.,

- 新見市天銀山, M.9.1963; 3exs., 新見市上吉川, M.9.1963〔林採集〕; 7exs., 新見市明石山, M.7.1963.
30. *Rhaphuma diminuta* Bates
ヒメクロトラカミキリ〔ヒメホントラカミキリ〕
2exs., 小田郡美星町鬼ヶ嶽, V.5.1962.
31. *Demoxat transilis* Bates
トゲヒゲトラカミキリ
1ex., 新見市森山, M.2.1963, 花上; 5exs., 新見市天銀山, M.9.1963, 花上; 1ex., 新見市上吉川, M.9.1963, 花上〔林採集〕; 1ex., 新見市上吉川, M.9.1963, 花上.
32. *Grammographus notabilis* Pascoe
キイロトラカミキリ〔アヤモントラカミキリ〕
3exs., 高梁市玉川, M.17.1962; 1ex., 倉敷市幸町, M.8.1963; 1ex., 川上郡成羽町天神山, M.16.1963.
33. *Agalyptus matsushitai* Hayashi
マツシタトラカミキリ
4exs., 新見市天銀山, M.9.1963.
34. *Dere thoraeica* White
ホタルカミキリ
4exs., 小田郡美星町鬼ヶ嶽, V.5.1962; 1ex., 川上郡川上町野呂, V.20.1962; 2exs., 高梁市玉川, M.17.1962; 2exs., 新見市上吉川, M.9.1963; 1ex., 新見市草間, M.23.1963.
35. *Purpuricenius temnickii* Guerin-Meneville
ベニカミキリ
2exs., 川上郡川上町弥高山, V.20.1962; 2exs., 新見市上吉川, M.9.1963; 1ex., 新見市上吉川, M.9.1963〔林採集〕.
36. *Purpuricenius spectabilis* Motschulsky
ヘリグロベニカミキリ
1ex., 川上郡成羽町天神山, M.16.1963.
- LAMI INAE**
フトカミキリ亜科
37. *Psacotha hilaris* Pascoe
キボンカミキリ
1ex., 都窪郡早島町矢尾, M.2.1963〔林採集〕.
38. *Anoplophora malascaca* Thomson
ゴマダラカミキリ
1ex., 阿哲郡哲多町荒戸山, M.9.1961; 1ex., 阿哲郡神郷町三室, M.16.1961; 1ex., 上房郡賀陽町大和山, M.30.1961.
39. *Uraecha bimaculata* Thomson
ヤハズカミキリ
2exs., 倉敷市日間山, M.25.1961.
40. *Xenicotela pardalina* Bates
チャボヒゲナガカミキリ
3exs., 新見市明石山, M.7.1963 薪上.
41. *Mpnocherus subfasciatus* Bates
ヒメヒゲナガカミキリ
2exs., 川上郡成羽町羽山溪, M.10.1962; 1ex., 新見市上吉川, M.9.1963〔林採集〕; 1ex., 川上郡成羽町天神山, M.16.1963; 1ex., 新見市明石山, M.7.1963.
42. *Butocera lineolata* Chevrolat
シロスジカミキリ
1ex., 上房郡賀陽町大和山, M.30.1961.
43. *Apriona japonica* Thomson
クワカミキリ
1ex., 倉敷市旭町, M.27.1961.
44. *Mesosa japonica* Bates
ゴマフカミキリ
1ex., 高梁市玉川, M.17.1962; 2exs., 新見市上吉川, M.9.1963; 1ex., 新見市上吉川, M.9.1963〔林採集〕; 1ex., 川上郡成羽町天神山, M.16.1963; 1ex., 新見市明石山, M.7.1963.
45. *Mesosa longipennis* Bates
ナガゴマフカミキリ
1ex., 高梁市玉川, M.17.1962; 1ex., 阿哲郡神郷町天神山, M.15.1962; 3exs., 新見市明石山, M.7.1963.
46. *Olenecamptus formosanus* Pic
タカサゴシロカミキリ〔タカサゴムネボソシロカミキリ〕
1ex., 高梁市玉川, M.17.1962; 1ex., 新見市足立, M.25.1962; 1ex., 新見市天銀山, M.25.1962.
47. *Pterolophia caudata* Bates
トガリシロオビサビカミキリ〔トガリバシロオビサビカミキリ〕
3exs., 新見市明石山, M.7.1963.
48. *Pterolophia regida* Bates
アトモンサビカミキリ
1ex., 総社市新本, V.5.1962; 1ex., 新見市上吉川, M.25.1962; 1ex., 新見市天銀山, M.15.1962; 1ex., 新見市上吉川, M.9.1963〔林採集〕; 1ex., 都窪郡早島町矢尾, M.2.1963〔林採集〕.
49. *Pterolophia jugosa* Bates
ナカジロサビカミキリ
1ex., 新見市上吉川, M.9.1963; 5exs., 新見市上吉川, M.9.1963〔林採集〕.
50. *Pterolophia leiopodina* Bates
シロオビサビカミキリ
1ex., 新見市明石山, M.7.1963.
51. *Asaperda rufipes* Bates
キクスイモドカミキリ
1ex., 川上郡成羽町羽山溪, M.10.1962

52. *Saperda tetrastigma* Bates
ムネモンヤツボシカミキリ
1ex., 川上郡成羽町羽山溪, V.10.1962. 灌木上.
53. *Mnesia sulphurata* Gebler
キモンカミキリ
1ex., 新見市上吉川, V.9.1963. 花上〔林採集〕.
54. *Mnesia flavotecta* Heyden
トウキヨウヒメカミキリ
1ex., 川上郡成羽町羽山溪, V.10.1962. 灌木上.
1ex., 新見市足立, V.25.1962. 足立駅の窓ガラス.
55. *Pyraglenea fortunei* Saunders
ラミーカミキリ
1ex., 川上郡成羽町羽山溪, V.10.1962; 1ex., 高梁市玉川, V.17.1962; 2exs., 川上郡備中町布賀, V.16.1963; 1ex., 新見市草間, V.23.1963.
56. *Glenea relicta* Pascoe
シラホシカミキリ
2exs., 新見市天銀山, V.25.1962; 1ex., 新見市 駒森山, V.2.1963; 1ex., 新見市天銀山, V.9.1963〔林採集〕.
57. *Purautetrapha simulans* Bates
ダイセンカミキリ〔ニセシラホシカミキリ・ヒメキクスイカミキリ〕
2exs., 新見市天銀山, V.25.1962. サワフタギ葉上.
58. *Nipserha marginella* Bates
ヘリダロリンゴカミキリ
1ex., 川上郡備中町布賀, V.16.1963.
59. *Obera vittata* Blesig
ホソキリンゴカミキリ〔ウスダロリンゴカミキリ〕
1ex., 川上郡成羽町羽山溪, V.10.1962; 1ex., 新見市天銀山, V.15.1962; 1ex., 新見市 駒森山, V.15.1962; 1ex., 新見市 明日山, V.7.1963.
60. *Obera mixta* Bates
ニセリンゴカミキリ
1ex., 川上郡成羽町天神山, V.16.1963.
61. *Obera hebescens* Bates
ヒメリンゴカミキリ〔フチダロチヤバネリンゴカミキリ〕
1ex., 川上郡成羽町羽山溪, V.10.1962; 1ex., 新見市天銀山, V.25.1962; 1ex., 阿哲郡神郷町天銀山, V.15.1962; 2exs., 川上郡成羽町天神山, V.16.1963.
62. *Phytoecia rufiventris* Gauthier des Cottas
キクスイカミキリ
1ex., 新見市満奇洞, V.28.1961; 1ex., 川上郡

- 川上郡野呂, V.20.1962; 1ex., 高梁市玉川, V.3.1963; 1ex., 新見市草間, V.23.1963.
63. *Epiglenea canes* Bates
ヨツキボシカミキリ
1ex., 新見市上吉川, V.9.1963〔林採集〕.
64. *Dumecocera trivittata* Freunirg
セミスジニセリンゴカミキリ
1ex., 新見市天銀山, V.25.1962. 灌木上; 1ex., 新見市天銀山, V.9.1963. 灌木葉上.
65. *Chreonoma fortunei* Thomson
ルリカミキリ
1ex., 新見市上吉川, V.25.1962.

尚参考のために1963年末までに「すずむし」誌上に発表された備中産カミキリの中、今回の筆者の採集目録にない38種を列記しておく。

ウスバカミキリ・クロカミキリ〔ムネマルクロカミキリ〕・ヒナルリハナカミキリ・ヨツボシチビハナカミキリ〔フタオビノミハナカミキリ〕・オオナカグロヒメハナカミキリ〔オオヒメハナカミキリ〕・キマダラカミキリ〔キマダラヤマカミキリ〕・ミヤマカミキリ〔ヤマカミキリ〕・ベーンヤサカミキリ・ヤマトチビコバネカミキリ・クスペニカミキリ・トラカミキリ〔トラフカミキリ〕・ウスイロトラカミキリ・ズマルトラカミキリ・ヨツスジトラカミキリ・トウキヨウトラカミキリ・アカジマトラカミキリ・モンクロベニカミキリ・イタヤカミキリ・マダラヒゲナガカミキリ〔マツノトビイロカミキリ〕・ピロウドカミキリ・オオシロカミキリ〔オオムネボンシロカミキリ〕・シロオビゴマフカミキリ・セミスジゴアヒゲカミキリ・ハイイロヤハズカミキリ・ワモンサビカミキリ・アトシロサビカミキリ〔オシロサビカミキリ〕・シロオビサビカミキリ・クワサビカミキリ・コブスジサビカミキリ〔ツマキキレバネツツチビカミキリ〕・ヒシカミキリ・ワモンドウボソカミキリ〔シロスジドウボソカミキリ〕・ナカバヤシモモブトカミキリ・ヒゲナガモモブトカミキリ〔スジマダラモモブトカミキリ〕・アトモンマルケシカミキリ・カツコウカミキリ・ヤツメカミキリ・イツシキキモンカミキリ・リンゴカミキリ。

註①学名及び和名は北隆館の「原色昆虫大図鑑Ⅱ」を使用した。

②倉敷市のうち、旧藤戸町、粒江村、福田町は備前地区に属しているので除外した。

③今回報告した標本はすべて倉敷昆虫館に展示してある。

岡山県の蛾 (1)

≈ 蛾類研究の手引 ≈

楯 本 精 二

はじめに

1962.11 倉敷昆虫館の開館当時僅か数箱の蛾類標本も1週年を迎えた1963.11には25箱(370種)と会員諸氏の努力が実を結び順調に増加して来ておりますので、此の際蛾類同好者の増加と資料・知見の獲得を旨として浅学非才の身をも顧みず本文をつづる次第です。

蛾の愛好者に期す

蝶は昆虫同好者の中で数が最も多く、分類・分布・生態・生活史などの研究が最もよく進んでおり、現在の我が国の研究では新種の発見は全然見込みがなく、分布研究もほぼ完全にされており、生活史・生態の研究も3種の蝶を除いては判明している現況である。

蛾は蝶に比べ①美しさが劣り、②鱗粉や触角・足が落ちやすいので標本作成がむづかしく、③採集が夜間が多く時間的に制限がある等のため採集を志す人が少ないのが実情である。しかし現在日本に産するとされている蛾は日本産蛾類総目録によると3092種を数え、その数において蝶の15倍もあり、分布も最近各地の熱心な同好者によって目録が発行されるようになってきたが、未だ各地とも採集品の増加が報せられており、1県全体としての採集品目録が完備しているのは新潟県だけである。

分類についても、*Tinea*・蛾類通信〔日本蛾類学会〕、蝶と蛾〔日本鱗翅学会〕誌上に毎年新種の発見が報せられており、世界各国の図説・論文・実物の入手比較によって種の分割や統合が行なわれており、調査が進むにつれて将来には5000種に達するであろうと井上博士が述べられており、同好者であれば新種発見者としての栄誉をに余り余地が充分にある。……

生態・生活史においては図鑑を見ればおわかりのことと思うが、食草の記載の無いものが多い状態であり、ましてや幼虫の形態・生活史は大部分のものが未知であり、誰でもが新知見の開拓者と

なり得る状態である。

県下の蛾類研究状況について

わが岡山県には古くから大原農業生物研究所(現在は岡山大学大原農業生物研究所)があり、その他岡山県立農事試験場、岡山たばこ試験場があって農業害虫の研究にすぐれた業績を発表されており、又各学校においても生物部を中心とした機関紙が発行せられ、その中に蛾類の研究論文があると推察されるが浅学の私には未だその一部をも確めることができない有様である。

蛾類の目録の報文には

- (1) 岡山県内生物目録 1920 岡山県発行
28科 712個体登載
- (2) 美作産蝶蛾目録 1959 岡山と昆虫
片山豊八 43科 856種登載
- (3) 黒沢山蛾類一覧表 美作の自然 6号
片山豊八 17科 200種
- (4) 黒沢山「蛾類一覧」につづいて 美作の
自然 7号 13科 76種
- (5) 都窪郡福田村産蛾類目録 すずむし
11巻 1号 楯本精二
16科 114種

があり、重複した種を除くと現在約1000種の蛾が産することが知られている。

昆虫の同好会としては、わが倉敷昆虫同好会と津山に美作博物同好会があり、それぞれ備中、美作地方を中心として活動している。

お願い

以上大雑把に県下の蛾類研究の概略を申し上げたが、会員諸氏や各学校の先生方におかれては同好会の機関紙に進んで手持ちの資料を発表されるか又は倉敷昆虫同好会の事務所宛に御通知下され、県下蛾類調査研究に御協力下さることをお願い致します。又手持ちの標本について調査を許して預ければ望外の幸と思えます。以下次号から蛾類各科について知見をまとめて発表する予定です。

備中町での蜻蛉採集記録

林 憲 一

アカンマトラカミキリが備中町井川で採集されたとの報告をうけ、再確認するため9月29日有志で同地方をおとづれた。肝心のカミキリムシは採集することができなかつたが、秋晴れのよい天候に恵まれ蝶や蜻蛉は多く楽しい一日であった。

筆者は主にトンボの成虫及幼虫の採集を行ったが、同地方は県の西端、広島県との県境に位置し蜻蛉についての記録が全くみあたらないので、採集品を整理して報告することにした。

なほ、同日蜻蛉の採集を行われた宇野弘之氏の採集品も氏のご好意により合せて報告させて載くことができたので誌上をかりて謝意を表す次第である。

採集日はすべて昭和38年9月29日で、採集地は岡山県川上郡備中町井川部落附近と同町小谷部落附近である。記録した標本は筆者及宇野氏の所蔵のものによる。

① *Lestes temporalis* Selys

オオアオイトトンボ

小谷, 6♂5♀〔宇野〕; 小谷, 1♂.

小谷の山間の稲田で連結、産卵する多数の本種をみとめた。

② *Calopteryx cornelia* Selys

ミヤマカワトンボ

井川, 幼虫1ex.; 小谷, 幼虫1ex.

③ *Mais strigata* Selys

カワトンボ

井川, 幼虫2exs.; 小谷, 幼虫8exs..

④ *Gomphus mulsanops* Selys

ヤマサナエ

小谷, 幼虫4exs..

⑤ *Dwidius nanus* Selys

ダヒドサナエ

小谷, 幼虫4exs..

⑥ *Stylogomphus suzukii* Ogawa

オジロサナエ

小谷, 1♂; 小谷, 幼虫3exs..

1♂は非常におそい記録と考えられる。

⑦ *Anotogaster sieboldii* Selys

オニヤンマ

小谷, 1♀; 井川, 幼虫1ex..

⑧ *Boyeria muclachlani* Selys

コシボソヤンマ

小谷, 幼虫2exs..

⑨ *Gynacantha japonica* Burtenef

カトリヤンマ

小谷, 1♂〔宇野〕.

⑩ *Samatochlora uchidai* Meister

タカネトンボ

井川, 1♂〔宇野〕

⑪ *Micrania amphigena* Selys

コヤマトンボ

井川, 幼虫2exs..

⑫ *Sympetrum pedemontanum elatum* Selys

ミヤマアカネ

井川, 1♀; 小谷, 4♂1♀〔宇野〕.

⑬ *Sympetrum darwinianum* Selys

ナツアカネ

小谷, 4♂1♀〔宇野〕; 小谷, 1♂.

⑭ *Sympetrum eroticum eroticum* Selys

マユタテアカネ

小谷, 1♂1♀; 小谷, 6♂3♀〔宇野〕.

〔注〕〔宇野〕は宇野弘之氏採集、採集者名ないものは筆者のものである。

岡山のマダラナニワトンボのこと

林 憲 一

トンボ同好者の集りでマダラナニワトンボの話が出ると必ず岡山がその産地として上げられる。

筆者も1961年岡山に帰り、方々の池を歩いたり、同好の諸先輩の話聞き、関係文献をみるまでこのことに疑いをもたず、県内のどこかに秋行けば必ず採集できる池があるものと考えていた。

然し、ナニワトンボは方々の池で採集は容易であるがマダラナニワトンボの姿はみえず、すゝむし等の関係文献にも記録なく、岡大の安江安宜先生をはじめ安東瑞夫氏、友野良一氏、赤枝一弘氏等の同好の諸先輩も採集されたことがないとの話から、岡山にマダラナニワトンボが棲息している

のかという疑問さえ生じて来る。

そこで、この疑問について筆者が調査した経過を報告しておきます。

先づ、岡山に本種が産することは広く同好者の疑われない点から、権威のある出版物にその出所を求めると、朝比奈正二郎先生の「日本の蜻蛉」⁽¹⁾にあると考えられます。同書には「関西種としてきわめて分布の限局された種類と考えられていたが、次第に分布のひろいことが分り、京都、岡山、和歌山のみならず広島、愛知、新潟、山形などの諸県にも産することが分った。」と記され、その後発行された岡先生ご執筆の「日本昆虫分類図説」⁽²⁾トノボ科の記載には、「最初発見された和歌山県のほか京都、岡山、広島、愛知、新潟、山形等の諸県で知られ、産地には多産するが棲息はきわめて限局されている。」とある。この二書から岡山県の本種が色々の雑誌に記録されて行くのだと考えられます。

然し、同じ朝比奈先生のご執筆になる「日本昆虫図鑑」⁽³⁾の同種の欄には「京都、和歌山県地方のみより知られていたが、近年山形県、愛知県よりも発見された。」とあるのみで岡山県の記録はない。

この二者を考えると、前者が1956年以降に書かれたものであるに対し、後者は1950年出版ということで、朝比奈先生がこの数年間に岡山産の本種の確実な標本を得られたことになると考えられる。

そこで筆者は朝比奈先生にごの点のご教示をお願いしたところ次のようなご返事をいただいた。

「岡山のマダラナニワトンボは小生の手許の標本〔標本番号マダラナニワトンボM.66〕に岡山大学医学部解剖学教室の小村達夫氏〔岡大理学部動物学教室—筆者注〕の採集送付された1匹、岡山市外、1954年11月2日採があります。ほかの記録はすぐ探し出せません。」

又、本年10月「マダラナニワトンボは小村達夫氏が細胞学の研究に使用された材料を送って来られたものが1匹あり、詳しい産地の記入がないので、小村氏の記入された岡山市外といふ外ありません。」

この1匹が問題の源であることが分り、早速小村先生にお話しを承ったところ、先生は当外トノボの精子形成過程のご研究をされて居り、岡山大学周辺のトノボの♂を採集されてはその精巢を取られ、種名の同定を朝比奈先生に送ってお願いされていた状況の様で、小村先生はどこで採集されたかのご記憶なく、「種々採集して送った中に入っていたのだろう。」とのご返事位しか載けませんでした。

なほ、この話を岡大の安江先生に申し上げたところ先生は「丁度その当時、自分も岡山周辺のトノボを採集していたのだが採集できなかった。」とのお話があった。

以上のことから判断して、「マダラナニワトンボが岡山に産するといふことは、偶然に採集されたこの1匹があつて、棲息場所等は不明である」ということに帰着する。

次に本種の分布状態から、今後岡山での発見可能性について考えてみることにする。

先づ筆者の手許にある資料より近畿以西の分布状態をみると次のようである。

- [三重県]奈良県よりの伊賀地方に広く分布⁽⁴⁾
- [奈良県]点々と分布⁽⁵⁾
- [和歌山県]記録はあるが正確な棲息地不明⁽⁶⁾
- [京都府]記録はあるが現在その池では全く採集されな⁽⁷⁾
- [大阪府]点々と分布⁽⁸⁾
- [兵庫県]姫路附近にも点々と分布⁽⁹⁾
- [広島県]八幡高原、賀茂高原に分布⁽¹⁰⁾

この分布状況より一応近畿一帯に点々と分布し、兵庫県の西部で岡山県のつづきの地方や、広島県の賀茂高原にもみられることから、岡山県での今後の発見可能性は十分あると考えられる。

なほ、小村先生の採集されたと考えられる岡山大学周辺は1954年頃とは非常に環境が変り、現在ではおそらく発見されないと考えられるが、北側山地に つづく津高町方面には池も多く今後の発見可能地の候補にあげられるのではないかと考えられる。

本種はナニワトンボのように池の近くにおらず産卵期の秋にも池からかなりはなれた樹上で生活するため、発見はやゝ困難かも知れないが、一刻も早く確実な棲息地が確認され、有名無実な現在の状態が消えさることを祈って筆を置く。

末筆ながら、色々ご教示を賜った朝比奈先生をはじめ安江、小村岡先生、安東、友野、赤枝の各氏に深謝いたします。

[注]

(1)朝比奈正二郎；日本の蜻蛉・資料

新昆虫9(4)~11(13)

(2)朝比奈正二郎；日本昆虫分類図説(1)

蜻蛉目・トノボ科

(3)北隆館；日本昆虫図鑑 1950

(4)林憲一；伊賀のマダラナニワトンボ

ひらくら.3 [8・9]

林憲一；伊賀の蜻蛉調査

三重生物 10 [1960]

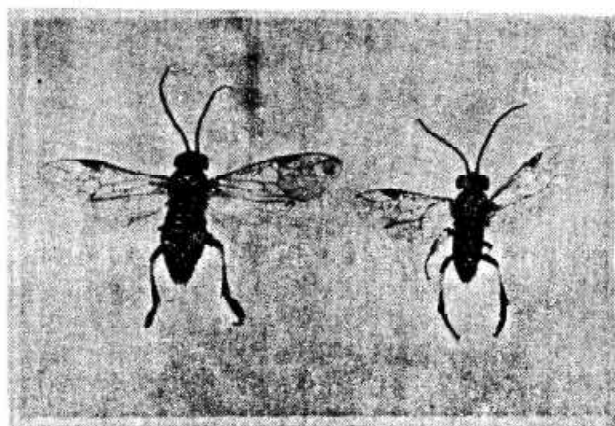
(5)(8)近畿地方の蜻蛉談話会での報告による

大阪科学博物館 [1963・12・1]

- (6) 乾風登; 和歌山県における蜻蛉資料
蜻蛉 1 (2)
- (7) 垂井由継; 京都附近のトンボ
AKITU 7 [1958]
- (9) 東輝弥氏の私信による [1963]

- 10 沢野十蔵; 広島県の蜻蛉 第1報
比和科学博物館研究報告 第3号
- 沢野十蔵; 広島県の蜻蛉 第2報
比和科学博物館研究報告 第5号

※ ~~~~~ 1年ぶりに羽化したヒラアシハバチ ~~~~~ ※



~~~~~ 近 藤 光 宏 ~~~~~

切りしたオオバヤシヤブシをさして飼育。

XI・中旬・1962 同飼育箱に、営巣用のピンを入れる。高さ18mm内径13cmのガラス製飼育ピンに稲わら、オオバヤシヤブシの枯葉。附近樹下の土をまぜあわせ、しめらせても土が、しまつてかたくならないうようふうしたもの。

XII・下旬・1962 土中の稲わらの間に営巣していることを確認する。目撃できた雌8  
exx ♀ 写真下左 長径12mm短径5mm  
♂ 写真下右 長径10mm短径3.5mm  
黒褐色をした巣の周囲には、土中の砂つぶが引き寄せられていた。

K~X・1963 羽化。♀体写真上左、体長8mm  
♂体写真上右 体長7mm

K・20・1963 2 exx 羽化

K・21・1963 1 ex 羽化

K・25・1963 1 ex 羽化

X・不明・1963 1 ♀ 羽化

昨年初冬の頃 1962, 11, 7~同12月2日, 倉敷市内向山の各所に植樹されている, オオバヤシヤブシの葉上で, 本種幼虫数十頭を採集したことについては, すでに本誌 Vol.12 No.4p[42] いて報じているが, その後約1年をへた今日 1963年9月から10月にかけて, 成虫4♀1♂の羽化に成功したので以下に飼育経過をとりまとめ報告します。なほ県下における本種の飼育データは見あたらないようである。

幼虫の加害状況及び, 幼虫の生態写真は, すでに発表しており, ここでは, 営巣, 成虫の写真を掲示しました。

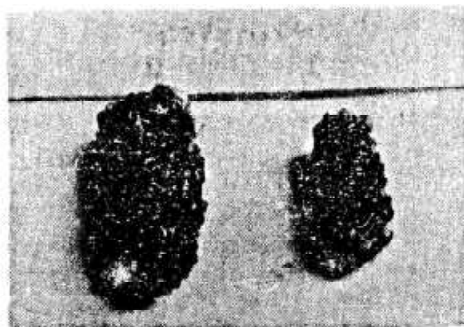
XI・7・1962 倉敷市向山標高100m付近で 本種 *Croesus japonicus* Takeuchi の幼虫数頭を採集する。

XI・23・1962 同じ向山の北面, 標高20m付近で, 数十頭を目撃し, 内数頭を採集する。

XI・24・1962 同じ附近の山で数頭採集する。

XII・2・1962 同じく附近の植樹で数頭を採集。

XII・上旬・1962 飼育中かなりらくごするものが見られる。先に, 20×20×35金網製飼育箱の中へ二つの三角ガラスコへ, 水





## ネキトンボの脱殻をとる

林 薫

すゞむし誌上に度々出て来るハッチュウトンボの生息地、総社市八代の湿地を近藤光宏氏に紹介され、8月5日同地をおとすれたところ、谷間の溪流の周囲にひろがる幅30cm、長さ7~80mの絶好の湿地に無数のハッチュウトンボとキイトンボが飛翔して楽しませてくれた。

この湿地の中に幅1~2m、長さ2~3m、深さ2~30cmの水溜りが2~3ヶ所あり、その1つで *Sympetrum* 属の脱殻8個を採集した。大きさ側棘の長さ、背棘の色々変化した様子にネキトンボと同定したが、次の点で疑問が生じたので名古屋でネキトンボの幼虫を研究していただける高崎保郎氏に同定を依頼した。

①幼虫が湿地で生息したと考えられること。

〔既知の棲息地はすべて池である。〕

②側刺毛が13本のものが多い。

〔高崎氏の記載によると名古屋附近の88個体で変異はないとのこと。〕

その後、同氏よりの返事によれば、①や②小型である。②体色が淡い。③側片に斑紋がない。④湿地に棲息するの4点の疑問はあるが、ネキトンボ以外に該当するものはないとの結果を得ました。

なほ、側刺毛13本の件は、今年13本のものが名古屋で採集されたとのことで、同脱殻をお送りいただきました。

そこで、秋に再び産卵に集る時成体を得て確認することにし、10月13日同地をおとすれたが、今度は無数のヒメアカネが飛翔するだけで、ネキトンボの姿は発見できなかった。

高崎氏の4つの疑問も、①②は棲息地により変

異がみとめられ、④は全くの湿地ではないし、③の疑問は今後の研究課題として、この8個の脱殻はネキトンボのものとして発表しておく。

ネキトンボの既産地は竜之口山と阿部山で、美作地方にも産するかも知れないが、<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup> 確実な点では第三の記録地となる。唯今後の成虫の確認が期待される。

〔参考文献〕

- (1)高崎保郎；ネキトンボの幼虫 TOMBO9 [3/4]  
 (2)赤枝一弘；ネキトンボ竜之口山における記録 すゞむし 7 (1)  
 (3)赤枝一弘；ネキトンボ阿部山における記録 すゞむし 9 (3)  
 (4)安東瑞夫；作東の蜻蛉類 (II) すゞむし 6 (3)  
 (5)片山豊八；岡山と昆虫 1959. 10

## おとしぶみ



鶴形山産のフサヒゲサシガメ

… \* … \* … \* …

## 投稿についてお願い

- おとしぶみ欄への原稿には、原稿用紙欄外に必ず赤で、「おとしぶみ」と御記入下さい。
- 昆虫の目録を書かれる場合は、すゞむしのわりつけが2段にまりました関係で、学名、和名を並べた場合、1行には入りきれないことが多いので、できれば、初めから2行に書いて下さいませようお願いいたします。(例)

## 蛾 2 題

## 1 マガリキドクガ

*Euproctis curvata* Wilenun

Ⅷ. 25. 63 玉島市玉島

Ⅸ. 18. 63

原色昆虫大図鑑によると珍しい種で、7月と10月にとれている。分布：本州（東海・近畿）・九州（福岡県沖ノ島・鹿児島県喜入）となっている。岡山県未記録種と思われる。標本は倉敷昆虫博物館と私が1体づつ所持している。

## 2 ウスイロキシタバ

*Catocala intacta* Leech

Ⅴ. 20. 63 玉島市玉島

原色昆虫大図鑑によると比較的稀な種で、6月中旬に本州中部以西の太平洋岸の平地（静岡、金谷、京都、神戸など）であり、四国（松山）・九州にも産するが、近年愛知県新城市桜淵公園に多産することが発見されている。岡山県下での記録は、

岡山県内生物目録 鱗翅類の部 466, 467, チャンタバ 浅口（金光）、真庭（

勝山）

美作産蝶蛾目録 7月中旬 津山市小田中の2つがある。外に高梁市玉の堀 浩氏の採集品中にも1ex.あり。県内には少数ながら産するものと認められる。標本は倉敷昆虫博物館に展示されている。

以上2種を玉島市内水銀灯で採取したので記録しておく。

（楨本精二）

## フサヒゲサシガメを倉敷で採集

筆者は1963年12月30日、倉敷街地中央にある鶴形山へ採集にでかけた。樹皮をはいでいたところ、皮の裏側に毛のふさふさしたカメムシの仲間が、30頭ほど集まっているのを発見、その中4頭を採集した。昆虫図鑑で調べたが、似たものがなかったため、倉敷昆虫同好会の先生方にみていただいたところ、*Ptilocerus immitis* Uhler フサヒゲサシガメであることがわかった。日本昆虫図鑑によれば、“本州および九州に産するも稀で、松の樹幹に群棲し、蟻を捕食する。”と記されていたので、ここに報告しておく。

（楠田雲居）

## （採集紀行）

## 北海道記 (2)

## — 塘路湖 —

朝6時・雨でテントはずぶぬれになっている。どうも歩くのを断念しなければならぬらしい。しばらく待つて見ようと待つていたが待つて程に雨は激しくなる。とにかくラジュースで飯を作る。ズッペをすすってからハンゴウを空にしてテントをたたみ早速帯広まで帰る事に決定、8時10分湖畔発のバスに乗り込む。昨日同じバスだった網を持っていく学生も別のバスに乗っていた様だ。彼はピカピカのオサムシを山道で捨てたと言って北海道に来た価値があつたと喜んでた。彼は大阪の人聞らしい。バスは満員で我々は補助席に座らされる。対岸は雨に煙って見えぬ。やがて我々はシラカバの林を抜け高原を走り森林を通り過ぎて十勝平野の雄大な景観を再び見る。帯広に近づくにつれて雨は激しくなる。十時頃帯広に着き11時40分帯広発の普通列車で雨の帯広に別れを告げる。汽車は十勝の平野を一直線に走り抜け音別あたりの親潮洗海岸線灰色にぶくうねっている太平洋を右手に見てただ一路海岸線を走る。戻し

## 秋山博志

しょう」あたりに来ると時期は遅いがそれでも黄赤紫に咲き乱れる花々が原野に点在していて美しい。ここまで来ると原野の中にまつぐのびている線路やのんびりと草を食べている牛や馬に北海道の北海道たる感じが感られる。いつしか雨は止み先の方に釧路の町がにぶく見え始める。原野の中にポツンポツンとある最新の工場が見え始めたと思つたらやがて原野の果てにある都市、釧路に着く、雨あがりの釧路の町中は静かである。だがバスの待ち合わせの間に歩いた町はまだ整備の途中にあるのだと思つた。だが駅だけは立派である。3時20分釧路駅前発塘路行のバスに乗る。(16円港を右手にちらつと見て魚のにおいたちこめる町並を通り抜ける。道はひどいものだ。バスに乗っている人は15人位。途中バスはだんだんと人を下して走る。車掌さんひどく色が白からさすがに日の当りの悪い所の産だけあるなと感心して眺めていた。大体に於て北海道の人間は色白の人が多い。根釧原野の丘陵部にバスはさしかかる、

バスは70~80kmのスピードで走る。このあたりタンチョウの飛来地である。ついに彼と私ともう一人の乗客の三人と運転手、車掌の五人になる。おじいさんが歩いていると止めて乗せてあげようと言う。のんびりしたものだ。運転手は曲り角が100mほどあると言って猛スピードでさっさと曲がる。だが得意になって走っていた彼、ある角を曲がるうとした途端顔色をなくして急ブレーキをかけた。乗客が飛び上ったのはいうまでもない。バケツはひっくり返るし人騒ぎ。といっても大クマが出た訳ではない。前から自衛隊のトラックが同じように急ブレーキをかけてようやく止まった所だ。右手は谷になっている。左手は山だ。ようやく危機一髪所でバスと心中をしなくて達古武という所に到着する。ここは塘路の手前で高原の上である。遠く湿原あるいは湖が地平線との境に見える。このあたりサイロと北国特有の家・牧場等がエキゾチックな風景を漂わせている。運転手は我々にキャンプをするのかと尋ねた後で2・3日前塘路湖キャンプ地の周辺に熊が出た事をいかに強調する。この為私に熊恐怖症が一段と悪化して来たのである。湖畔までバスをやりましょうかと言ってくれたが役場で許可書ももらわねばならぬので塘路駅の近くで降りてもらおう。色の白い車掌に別れを告げ駅の前を通り役場まで行くと紙に書かされたパンフレットをもらって帰る。パンフレットの概要は次の様である。一塘路の景観一 釧路駅から40分釧路市と標茶町市街の間点に行しているのが塘路で公園(町立公園となっている)地内には塘路駅と茅沼駅の二ヶ所があり、それぞれ下車即公園地内という交通上最上の利便地である。また車道は、道々開発路線がこの公園を横断し、釧路市から阿寒国立公園入口の弟子屈、川湯に結ばれる中間地点でバスが運行され本道に於ける重要な観光ルートにあっている。湖周提防敷地に立ち並ぶ森と湖の美しさは格別である。更に北方的湖沼風景を構成し、茫漠とした湿原と多彩な広葉樹林におおわれたなだらかな丘陵の対比に著しい特徴がある。西北に雄阿寒、雌阿寒を遠望し、草原デルタを形成して流れる釧路川の大蛇行等、荒涼とした景観要素であって近代人の大きな魅力である。更にベカンベ祭の項ではトーロのベカンベ祭りは毎月9月上旬に行なわれる。ベカンベ(ひしの実)は他の地方にもあるのでベカンベ祭りも昔は各地で行われていたかも知れないが現在は塘路湖以外では祭りをしている所はない。和人に接するまで農業を知らずに漁猟によって獲物を主食としていたアイヌは野菜・木の実等の植物性のものを副食とする自然採集物で生活していた。そ

してその採集した自然物は皆神から祖先に授けられてその採集法も又、神から教えの感謝あるいは祈願のお祭りをしたものである。昔からこの地方民の重要な食物となっていたこのベカンベを特に神から授かったものとして感謝と祈願のお祭りをしてから採る事になっている。これがベカンベ祭り(ベカンベ・カムイノミ)です。この湖は昔の釧路湾名残りの海跡湖といわれ湖周約22km湖には魚族豊富でコイ・ワカサギ・フナ・ウナギ・サケ・マス等の淡水魚が多く棲息している。そのうちワカサギが代表で昭和37年度の水揚高63トンに及ぶ。——役場でもクマの出没した事を聞かされる。ますます心細くなって来る。だがキャンプ地まで4kmの道を歩く。(実際は2km)キスをついでいるので4kmの道は相当苦しかった。クマが出るからであろうキャンプ地の周囲には有刺線がものしく張ってある。クマの足跡があると何か云いながらもテントを張って水を捜しに出かける。湖の水は緑色ににごっていて使えない。水を捜しに歩いたが徒勞に終わった。そこで2km離れた一軒の民家に水をもらいに行く。帰ってみると彼はすでにこの水が知らないが飯をたいている。野さいいためにはすでに出来ている。ここでラシェースの石油が無くなったと彼が言うので火をつけてみると未だ残っている。安心して飯を食べるとあたりはもうすっかり暮色に包まれてしまう。湖面には波もなく静かに夜もふけて来る。彼はすぐいびきをかいていたが9時頃まで眠れず。それでも9時半頃には眠っていたようだった。8月24日眼をさますと彼がいない。さてはクマに食われたかと思いテントから出るとすでに彼は飯をたいている。空は相変わらず雲は覆われている。飯を食べてテントのすぐ上の山道に何かの足跡がある。それが蹄鉄をつけない馬の蹄跡だと判るまでクマの足跡だと思い続けた。7時半頃より湖畔を採集する。クジャク・ヒヨウモン類・フタスジチョウ・エゾヒメシロチョウ・エゾスジグロチョウ・ヲナガンジミ・カラスシジミ・ウラゴマダラシジミ・ウラシロミドリシジミ等を網にする。時折頭上をミヤマカラスアゲハが通り過ぎる。カミキリではヨツスジハナカミキリ・アカハナカミキリ・エグリトラカミキリ・ノコギリカミキリ等の普通種しか目につかない。オニクワガタの♂も一頭手に入れる。ヨスジホソハナカミキリも花上で得る。カムイ岬の少し向こうまで歩き帰路は湖岸の砂の上を歩いて帰る。岬の向こう側に湧き出る泉を見つけて昨夜の事を残念に思う。9時40分テント回収の後駅まで歩く。10時46分塘路発の列車に乗り彼の友、上沢田君の居る標茶(シ

ベチャ)まで行く。原野の中を汽車は過ぎて行く駅の近くに牧場や畑が開けていてサイロや牧舎が遠く近くに見え隠れする。11時18分標茶に着く。早速彼の友達の家を訪ねてソバ等食う。三人で釧路川を渡り機場の大きさでは日本一だという標茶高校を見て高校裏の丘に登る。山道の路端に咲く花にカラスシジミ・エゾスグロ・ヒョウモン類が群がっている。木立の間から町が見える所まで来て少しばかり休憩。この町からパイロットフォーレスは近いとの事で行こうと思ったのだが時間の都合で止めて弟子屈まで行く事にする。3時4分友達に見送られて丁度学校帰りの女生徒といっしょに満員の列車に乗り込む。この頃から小雨がちらつき始める。4時14分弟子屈に着く。さっそく釧路川のたもと(のキャンプ地?)に行きテントを張る。テントを張っていたらはんでんを着た宿屋の番頭らしいのが来て珍らしそうに我々を眺め話をして帰る。料里の人らしい。飯をたきカレーを作る。塩サバをだしに使ったのだがその塩サバにはハエのウジが発生していた。それでも結構うまかった。飯を食べて我々はここで目的、永田洋平氏を訪問する。町の通りに大黒堂という土産物屋がある。ここが氏の家である。最近新築した家で調度品等新品である。7時半頃キャンプ地を出て町に行き氏の家先で絵葉書等を買ってから氏の家である事を再確認して声をかける。二階の応接室に我々を通していろいろな話に夜のふけるのも忘れる。野性動物は臭覚が発達しているからクマが出たら酢酸を鼻にかけてやると逃げ出すだろうとか若い時分には占いを覚えてそれで日本一周した事がある。とか又知床の断崖をロッククライミング中転落足に木の枝が付きささり途中でようやく止まったとか詩人三好達二等と東京時代を過ごしたとか等々。氏は弟子屈町の教育委員長をしておられる。又氏は詩を専門にやって来てそのかたわら動物の研究をやっている間に動物の方が専門になったとの事。氏は又鳥の専門家といわれているがマスコミがそうしたのだと言う。我々が明日摩周湖に行くと言ったら自殺者に気をつけるという。摩周湖は自殺の名所という事だ。氏も一度摩周湖で死体に会ったそうだ。氏は明日子供をつれて近くの川へマス釣りに行くのだといつてその話もしてくれる。夜も十時過ぎクマゲラの標本をみたり氏の事が紹介されてあるフジヤマ式の外国産物を見たりして氏の家をいとます。写真の現像焼付の技術を覚えていればアルバイトにやとってくれるという事を聞いたのは今度来る時の役に立ちそうだった。途中水銀灯に集まる虫オオモクムシ、コクワガタマダゴコガネ等を見る。

——— 摩 周 湖 ———

8時45分バスステーションより摩周湖に向けて出発する。ガイドの説明を聞きながら一路阿寒国公園摩周湖へと走る。やがて原始林が見え始めると待望の摩周湖に到着。湖はすっかりガスにおおわれて眺望はきかない。湖面さえも見えない。我々は早速湖岸まで降りる。湖面まで約200m位の火口壁を下らなければならない急傾斜でよくすべる。それでも湖岸に下りると早速テントを張る。テント一つ張るのがやっとだ。バイカル湖をしのぐ世界一の透明度を誇る神秘の湖その水は出る事もなく入る事もなくあるいはオホーツク海と連なっているのではないかと云われているとのガイドの説明通り水は水晶の様に透明であった。テント設置の後服を着ていても寒い位なのに泳いでみる。水が透明なので深さが感じられない。浅いと思って足をつけると足がつかない。この湖水がきれいなので魚は放流したヒメマス以外に何もいないとの事だ。サリガニもいるが放流したものだ。ヒメマスは大きくもならず小さくもならないそうである。泳いでから展望台まで上り川湯行のバスに乗り込む。

第3展望台を経てダケカンバの林を抜け硫黄山に向う。硫黄山にはハイマツとシラカバ・エゾツツジ見られる。山にはいたる所からガスが吹き出している。コヒオドシ・フタフシカミキリ等がガスの為に死んでいる。五時頃川湯まで歩いた彼がバスに乗ってやって来る。そのバスに乗り込みテントの所まで帰る。途中第3展望台で土産物屋でトゥモロコシとクロユリの球根を買う。カミキリではこの日カラカネハナカミキリを採集したのみ。それから湖畔でミヤマカラスアゲハを採集。小雨の中で夕飯を作るとラジューズの石油が残り少なくなる。朝飯を作っているとついに火が消える。そこで固型燃料で飯をたぐ。その夜は今までの中で最も印象的な夜だった。湖上を時折光が走る。いな光かと思つたがどうも網走あたりの灯台の光らしい。神秘の湖にただ二人だけいるのは何か知ら不思議な思いがする。波の音風の音が暗い湖に満ちている様だった。それにしても明日札幌へ帰るのが惜しい気がして来た。ヘッドランプで水を照らしているとサリガニが集まって来る。それをつかまえて来て食べようとしたがかわいそうなので全部水に戻してやった。26日朝、4時30分波の音に目をさます。前方に摩周岳・料里の朝のすみ切った空気の中に浮かび出ている。8時30分美幌行のバスに乗り込む。第3展望台に来てみると土産物屋は全焼していた。ダケカンバ・ニレ・ハクヨウシュ等を窓外に見て屈斜路湖畔砂湯に到着。ここは湖岸か

ら湯がいくらでも湧き出ている。アイヌ部落を通り過ぎ和琴半島に到着。和琴半島はミンミンセミの北限地として天然記念物に指定されている。ここでミンミンセミの鳴き声を耳にする。美幌峠に着くとあいにく雨。和琴では太陽さえ出ているのに雨では少しも眺望がきかない。晴れていると阿寒国立公園の大半は眺められるとの事。足元に扇斜路湖をみただけでバスに乗る。バスの窓から速く能取・網走両湖が2つの線になって見える。雄大な大原始林を過ぎるとあたりはびっじりと穂の出た稲作地帯になる。このあたり米作地帯の北限地との事。やがてバスは1時30分美幌の町へ出る。美幌から急行第1ハマナスで札幌に向う。こうして北海道での彼の採集行は終了して翌日藻岩山に行き28日札幌を出発して洞爺湖・昭和新山に行き30日東京に着き第1宮島でその夜わが臨山に着いた。この様にして北海道での放浪の旅は終了したのだが昆虫の採集した数は予想外であった。次にデーターを記しておきます。

— 北海道採集目録 (目)は目撃 —

※アゲハチョウ科

1. キアゲハ (俱知安目)
2. ミヤマカラスアゲハ (摩周 1ex)

※シロチョウ科

1. エゾヒメシロチョウ (塘路 1ex)
2. モンキチョウ (俱知安 2ex, 然別 1ex, 塘路 4ex, 藻岩 2ex)
3. モンシロチョウ (藻岩 1ex)
4. エゾスズグロチョウ (俱知安 1ex, 然別 3ex, 塘路 4ex, 藻岩 2ex)

※タテハチョウ科

1. コムラサキ (俱知安目)
2. コミスジ (然別 1ex)
3. オオイチモンジ (然別 1♀)
4. フタフシチョウ (然別 1ex, 塘路 1ex)
5. サカハナチョウ (俱知安目)
6. シータテハ (然別 1ex)
7. エルタテハ (俱知安目)
8. アカタテハ (俱知安目)
9. クジャクチョウ (俱知安 1ex, 塘路 1ex)
10. コヒオドシ (然別 1ex, 硫黄山 1ex, 藻岩山 1ex)
11. ウラギンヒュウモン (然別 1ex)
12. ギンボンヒュウモン (然別, 標茶 etc(目))
13. オオウラギンズジヒュウモン (塘路 1ex)
14. ウラギンズジヒュウモン (俱知安 1ex, 塘路 8ex, 摩周 1ex)
15. ミドリヒュウモン (然別 4ex)

※ジャノメチョウ科

1. ジャノメチョウ (塘路 1ex)
2. クロヒカゲ (俱知安 3ex, 塘路 1ex)
3. ヒメキマダラヒカゲ (然別 2ex)
4. オオヒカゲ (俱知安目)

※シジミチョウ科

1. ウラゴマダラシジミ (塘路 1ex)

2. オナガンシジミ (俱知安 2ex, 塘路 1ex)
3. オオミドリシジミ (俱知安 1ex)
4. ウラジロミドリシジミ (塘路 1ex)
5. カラスシジミ (塘路 1ex)
6. シジミチョウ (俱知安 1♀)
7. ルリシジミ (俱知安 1ex)
8. ツバメシジミ (塘路 3ex)

※セセリチョウ科

1. コキマダラセセリ (俱知安 3ex, 然別 2ex)
2. キバネセセリ (俱知安 1ex)

※カミキリムシ科

1. ノコギリカミキリ (塘路 1ex)
2. カラカネハナカミキリ (摩周 1ex)
3. アカハナカミキリ (然別 6ex, 俱知安 5ex, 塘路 2ex)
4. ヨツシホソハナカミキリ (然別 2ex, 塘路 2ex)
5. ヨスジホソハナカミキリ (塘路 1ex)
6. フタスジハナカミキリ (摩周 2ex, 硫黄山 1ex, 然別 4ex)
7. マルガタハナカミキリ (然別 1ex)
8. ヤツボシハナカミキリ (然別 2ex)
9. ミドリカミキリ (然別 1ex)
10. ハンノアオカミキリ (然別 1ex)
11. シラフヨツボシヒゲナガカミキリ (然別 8♂, 6♀)
12. エグリトラカミキリ (塘路 1ex)
13. トガリシヤオビサビカミキリ (俱知安 1ex)

※ハンミョウ科

1. ニワハンミョウ (塘路 1ex)
2. ミヤマハンミョウ (然別 6ex, 藻岩山 1ex)

※オサムシ科

1. エゾマイマイカブリ (俱知安 1ex)

※ゴミムシ科

1. オサムシモドキ (塘路 1ex)
2. オオゴモクムシ (弟子屈 2ex)

※クワガタムシ科

1. ミヤマクワガタ (俱知安 1♀)
2. コクワガタ (弟子屈 1♀)
3. オニクワガタ (塘路 1♂)

※コガネムシ科

1. ダイコクコガネ (俱知安 1♂, 洞爺 1♂)
2. マグソコガネ (弟子屈 4ex)
3. サクラコガネ (俱知安 2ex)
4. アオハナムグリ (塘路 1ex)
5. アオカナブン (塘路 1ex)

※カメムシ科

1. エゾアオカメムシ (塘路 1ex, 俱知安 1ex)
2. アカスシカメムシ (札幌 1ex)
3. ツノカメムシ (標茶 1ex)
4. クチブトカメムシ (俱知安 2ex)

※セミ科

1. アブラゼミ (札幌 4♂)
2. ミンミンゼミ (和琴にて鳴き声を聞く)
3. コエゾゼミ (俱知安 1♂, 塘路 1♂ (以上判明しているもの))

## ドクトル・ザーメン採集回顧録(2)

=アカジマトラカミキリ6人の侍を走らす=

ドクトル・ザーメン

9月28日いつもの如く重井病院屋上の倉敷昆虫同好会事務所へ出かけた。採集シーズンもほとんど終わろうという此頃でもあり、はや思いは来年の採集シーズンにとんでにぎやかなことであつた。何をまだ半年も先のことを、鬼も笑うぞと私一人物思いにふけていたのであるが、たまたま自家用車で……云々”という言葉が耳に入ってきた。自家用車といえば本年の採集には重井院長に負う所大なるものがあるのであり、新庄村採集旅行にしても重井院長の自家用車あればこそできたのである。倉敷を朝6時頃に出ると岡山県の最北端といえども9時には到着する威力をもつて居り、3日分ほどの日程を1日で消化し、全く重井院長様々であつた。私は6月の第2回新庄村採集旅行のときに御世話になっており、持つべきは車なりとつくづく思ひその威力を認めるのにやぶさかではない。しかしこの最大の欠点は乗車人員に制限されるということである。私は他日重井院長におすすめしようと思うのであるが、早くヘリコプターを購入してもらいたいのであり、これで採集にかけ廻ればよほど能率も上がらう。重井病院ともなれば飛行機の一台中ぐらいあつてもよいだろう。ともあれそうした次第で欠員でも生じない限り仲間に入れてもらえないのであり、自家用車で採集に出ると聞けば何か物悲しい気持がしないでもないのである。

そうした話題が出たとき、たまたま翌29日備中町井川に自家用車で採集に出かけるので、一緒に行かないかとさそわれた。何という有難い話であろう。誰か常連が都合が悪く行けないのだろうと思って聞いてみると、幸い近藤光宏氏が行けないだろうとのことである。幸いと書いて失礼ではないかとお考えの読者もあるかも知れないが、同君奥方の御出産があつたばかりなりと聞けばうなずかれよう。氏にとつても御目出たい限りであり、また私にとつてもお蔭で参加できたわけで、重ね重ねまず目出たし目出たしであつた。倉敷東中の貝原君が数日前井川の親戚へ遊びに行った時偶々拾ってきた昆虫がアカジマトラカミキリであつたので、まだ見つかるかも知れないとあつたましくもまた果無い僥倖をあてにして、とるものもとりあえず急に話しがまとまり採集と相成つた次第である。

翌29日、幸いにして好天に恵まれいつもの通

り6時に重井病院前を定員いっぱい6名を乗せて出発した。か弱きアカジマトラカミキリを大人が6人がかりで寄つてたかつてとり散らそうといふのであるから百花狼籍、けだしアカジマトラカミキリ受難の1ページではあつた。しかし何ときれいな奴だろう。南国の絢爛たる色採を誇り、さながら天国の楽園を舞うにふさはしい艶やかさである。こんな奴を1匹でもつかまえることができたらと思ひつつ、日頃鍛えた腕をさすりながら行くこと2時間半、目的地につく。いつもの如く出舎の人々の好奇心の出迎えをうける。大人が6名それぞれ大きな綱をもち異様な服装に身を固め、人跡も稀なところへしかもどやどや車から降りたつたのであるから驚かさぬ方が無理かも知れない。田舎の風紀を犯したことおびたしいものがある。直ちに捜査開始、ケヤ木の老木、イタドリの花を捜して歩くこと1時間半めざすアカジマトラはその姿を遂に現はさなかつた。12の瞳で1匹も見つからぬとは何という筋力が揃つたのか全くなさけない限りである。しかしすくなくとも私は視力それぞれ1.5、目にかけては自信があるのであり、余人ならばいざ知らず私の目を逃れることは絶体できないぞとばかり草の根分けても更に念入りに捜査したが見当らず、重井院長はじめ一同あきらめて引きあげ次の採集地へと足をのばす。貝原君のとつた所はもう少し上に登つた所であつたことが後でわかり、もう少し足をのばしていたらと思つたが後の祭り、どうか来年に備えてうんと卵を産んでおいて下さい。貴下御一統様のいつそりの御繁栄を心からお祈り申し上げる次第である。

いつものように重井院長から頂いたビールでのを潤し昼食後さらに採集を試みるが、私はもっぱらトンボのしかも雄をねらつて採集。いうまでもなく精巣を切りとつてセクションする為である。当日の主な採集品、ビニール袋に大切に入れたアケビの実のみとは、アカジマトラもさぞかし草葉の蔭で苦笑したことであろう。それでも一同、奥様への絶好の御土産とばかりアケビの実を大切に抱いて意気洋洋と引き上げた。

(1963年11月3日記)

近 着 交 換 誌 紹 介

この欄の雑誌は事ム所に整理保管していますからご利用下さい。

(雑誌

- o インセクト Vol.13 No.3 昆虫愛好会  
 o 因幡のむし No.4 鳥取大農学部昆虫同好会  
 o WORM SHIP No.74 北九州昆虫趣味の会  
 o 誘蛾燈 No.16 誘蛾会  
 o # 昆虫学会記念号 #  
 o ひらくら Vol.6 No.6 三重昆虫談話会  
 o # No.7 #  
 o # No.8 #  
 o # No.9 #  
 o # No.10 #  
 o # No.11 #  
 o # No.12 #  
 o # Vol.7 No.1 #  
 o *Gamburi* No.3 岩手虫の会  
 o # No.4 #  
 o 関西自然科学 第15号 関西自然科学研究会  
 o 観察 Vol.10 No.2~3 志賀虫の会  
 o 近江博物同好会誌 17号 近江博物同好会  
 o # 18号 #  
 o 愛媛の自然 5巻 10号 愛媛自然科学教室  
 o 筑紫の昆虫 7巻 2号 筑紫昆虫同好会  
 o # 8巻 1,2号 #  
 o 昆虫科学 No.11 昆虫団体研究会  
 o # No.12 #

- o 昆虫科学 No.13 昆虫団体研究会  
 o ハトの使い No.19~No.20 #  
 o # No.22~No.25 #  
 o INSECT MAGAZINE No.59 京浜同好会  
 o はばたき 55号~58号 #  
 o 美作の自然 9号 美作博物同好会  
 o 広島虫の会々報 2号 広島虫の会  
 o 雑報 2号~3号 #  
 o 熊本昆虫同好会々報 21号 熊本昆虫同好会  
 o SATSUMA 36号 鹿児島昆虫同好会  
 o アルポ 14号~15号 #  
 o *Nature Study* 1962.5~1963.12 (14冊) 大阪市立自然科学博物館

(別紙

- o 情島の昆虫類 田口英成・小阪敏和  
 o 呉市附近におけるカミキリムシ科の幼虫の食樹 小阪敏和  
 o 呉市附近の鞘翅目 小阪敏和  
 o 日本産蜻蛉類の雄性生殖器による分類とその系統の考察 安藤 尚  
 o 徳之島の蜻蛉類 石田昇三  
 o オオギンヤンマの本州における一偶産記路 石田昇三  
 o 九州本土より新記路のトンボ2種 石田昇三  
 o ノ関地方生物調査報告(昆虫篇) 小岩融夫  
 o ノ関地方産蛾類目録(上) 小岩融夫

.....

目 次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| ○重井 博：備中産カミキリムシ類採集目録 .....        | 1  |
| ○榎本精二：岡山県の蛾 (1) .....             | 5  |
| ○林 憲一：備中町での蜻蛉採集記録 .....           | 6  |
| ○林 憲一：岡山のマダラナニワトンボのこと .....       | 6  |
| ○近藤光宏：1年ぶりに羽化したヒラアソババチ .....      | 8  |
| ○林 憲一：ネキトンボの脱殻をとる .....           | 9  |
| && おとしぶみ &&&&&                    |    |
| ○榎本精二：蛾2題 .....                   | 10 |
| ○楠田雲居：フサヒゲサシガメを倉敷で採集 .....        | 10 |
| &&&&&&&&&&&&&&&&                  |    |
| ○秋山博志：北海道記 (2) .....              | 10 |
| ○ドクトルサーメン：ドクトルサーメン採集回顧録 (2) ..... | 14 |
| ○近着交換認紹介・会員移動・会員消息 .....          | 15 |

医 療 法 人

重 井 病 院

倉 敷 市 幸 町

TEL 代表 (22) 3 6 5 5